

と云ひ、尙著者は附言して、卵の産出を實見せず。恐らくは脊面兩側の體壁が破れて、其の大形なる卵を放出するべく、又卵は體外に出でたる後に受精するならんと云へり。(抄録者曰く、卵は大にして排泄孔は小なりと雖も、之にて其の卵の通過を不可能なりと考ふるは早計たるを免れず。卵は固形體に非ざれば小孔を通過せんとする時には變形すれば可なり。余は前年三崎の臨海實驗所に於て *Sagitta* 類の卵が一時的變形を爲して、大形なる卵に比して、頗る小形なる孔を通過するを實見したればなり。)

親の體內より出たる卵は特別なる被膜にて保護せられ、雌性環節の背部兩側に一個宛着座し、此所にて發育を始め、約十八個の環節を有し、親と殆んど同構造を有する程度まで進み、而して後に被膜を破りて脱出するなり。(飯塚啓)

妊娠時の尿を注射せる動物の過コレステリン血清

PARHON, C. I. et CAHANE, T.: Hypercholestérimie sérique des animaux recevant en injection l'urine de femmes gravides, C. R. Soc. Biol. T. 103, 1930.

妊娠中の婦人の血液又は尿中に腦下垂體前葉のホルモンと同一作用を有する物質が含まれてゐることは近時 ZONDEK 等に依つて明かにせられてきた。現著者等はかかる尿を四匹の雌の家兎に五日乃至百二十日に亙つて(總尿量 50-630 cc.) 注射して、その血清中のコレステリン量を測定した。(平均 0.940/1000)。對照實驗としては、妊娠してない婦人の尿を二十七日乃至三十日に亙つて(總尿量 200-300 cc.) 注射した兎三匹に就いての測定(平均 0.750/1009)、健康男子の尿を十日乃至三十日間(總尿量 100-300 cc.) 注射した兎三匹に就ての測定(平均 0.816/1000)、及び何等注射をしない正常なる雌兎七匹に就ての測定をした(平均 0.807/1000)。以上の四種の測定結果を比較すると、妊娠婦人の尿を注射した兎の血清は他の實驗のそれに比して、明かに多量のコレステリンを含んでゐることが知れる。(合田得輔)

アドレナリンの反覆注射による大脳及び小脳の phosphore 量の減少

PARHON, C. I. et WERNER, G.: Teneur en phosphore du cerveau et du cervelet chez les animaux ayant reçu des injections répétées d'adrénaline. C. R. Soc. Biol. T. 105, 1930.

著者等は同一雜誌の二月號に於いて、Recherches sur la teneur en phosphore du cerveau et du cervelet chez des chiens parathyroïdectomisés ou thyropara-